

万博公園探鳥会

2024年11月9日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
玉置こるり・平軍二(090-6901-1425)

I 千里の鳥・万博の鳥「エゾビタキ」

漢字名 「蝦夷鶇」



エゾビタキ 橋本昌宗



先月 10/12 の探鳥会ではエゾビタキが 10 羽と、数多く観察できたので紹介したい。
エゾビタキは繁殖地が千島・カムチャッカ、樺太、ロシア東部にあり、日本では春・秋の渡りの季節に通過する旅鳥である。サメビタキ属 3 種は、特に秋の渡り時によく観察できるが、これまでの観察数(概数)は、コサメビタキ 10 羽に対しエゾビタキ 5 羽、サメビタキは 1 羽以下と、コサメビタキが多かった。それが先月探鳥会では、コサメビタキが 2 羽にとどまったのに対し、エゾビタキは 10 羽と多かった。
平が担当の 10/6 枚方淀川探鳥会(淀川河川敷)でも、エゾビタキ 12 羽、コサメビタキ 6 羽(更にサメビタキ 2 羽)観察していたことから、今秋はエゾビタキが多かったのかどうか、他の探鳥会についても確認したいと思っている。

エゾビタキの体長(嘴～尾)は 14.5～15 cm と、コサメビタキ 13 cm、サメビタキ 14 cm に比しやや大きく見える。また下面は写真で見られるように、胸から脇に暗灰褐色の斑があることから、屋外観察で他の 2 種と識別しやすいポイントになっている。エゾビタキを含めたヒタキ科の鳥はフライングキャッチが得意で、明るい林の枯れ枝などに止まっていて、近くに昆虫がくると飛び立ち、空中でホバリングしながら飛んでいる昆虫を捕まえる。その特性は海外でも認められているようで、サメビタキ属・キビタキ属・オオルリ属などの英名は「Flycatcher」である(★1)。

エゾビタキ 蝦夷鶇 Grey-spotted Flycatcher

キビタキ 黄鶇 Narcissus Flycatcher

オオルリ 大瑠璃 Blue-and-white Flycatcher

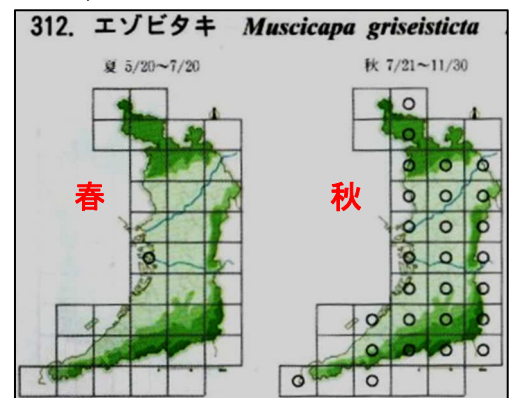
北海道に繁殖していないのにエゾビタキと名づけられているが、蝦夷地といわれていた北方四島に繁殖していたことから、エゾビタキになったのではないかという説がある(★2)

文献(★1)真木・大西・五百澤「日本の野鳥650(平凡社) 2014年

(★2)インターネット検索結果

① エゾビタキ春秋の観察実績(大阪府鳥類目録 2016)→

右図からわかるように、大阪府では春の渡り時にほとんど観察できないが、秋の渡りではよく観察されている。
この理由は定かでないが、①渡りのコースが春秋で違うためか、②春、繁殖地への渡りの途中でほとんど休憩しないのに対し、秋、越冬地への渡りでは途中の休憩を多くとるためか、どちらかと思われる。



II 70年万博の森 育む遺産(レガシー)

(2024年10月29日 毎日新聞 夕刊)

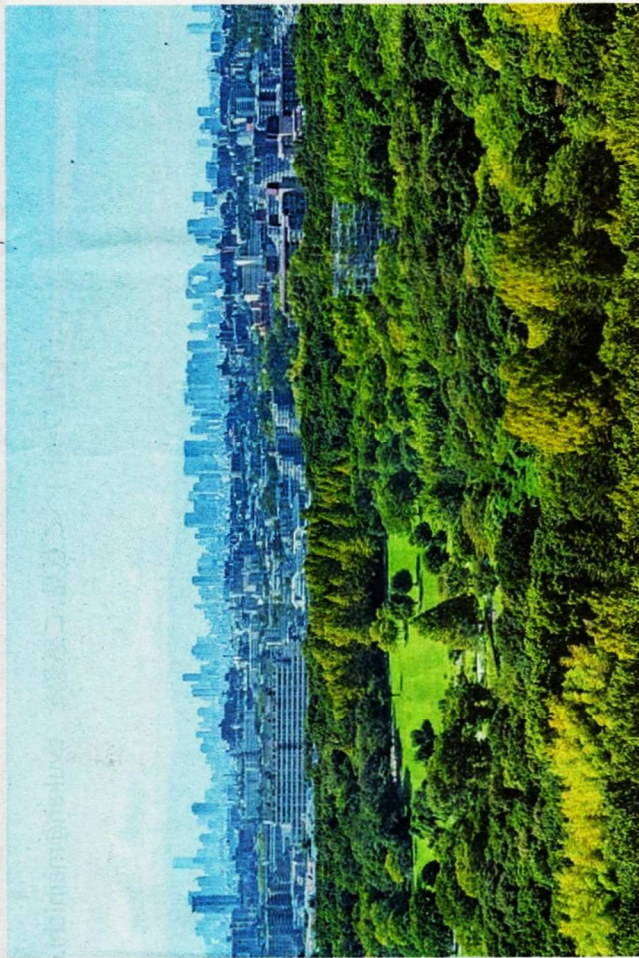
第51119号

毎日新聞

70年万博の森 育む遺産^{レガシー}

緑のグラデーションが美しい、もこもことした森の木々。人里離れた山の風景写真かと思いきや、被写体は都市のど真ん中、しかも人工の森だ。通称「万博の森」。1970年大阪万博の会場跡地(大阪府吹田市)につくられた。4年にわたって森を撮影し、先月写真集「奇跡の森 EXPO70」(アトランセンタ)を刊行した写真家の畑祥雄さん(74)は「世界的にも珍しいこの森こそ、70年万博のレガシー(遺産)だ」と言い切る。そして「森のこれからの姿は、日本人の肖像になる」とも。

「万博の森」のすぐ外にはマンションや住宅が建ち並び、その先には大阪市中心部の高層ビル群が見える



奇跡の「調和」写真集に

2021年から毎週火曜を撮影日と決め通った。森が誇る生物多様性を表現するため、被写体は森に生きるあらゆるものと決めた。難しかったのは、約50〜60種が生息するという野鳥。写真家人生で初の挑戦だったが、森の豊かさを示す重要な存在として、根気強く撮影を重ねた。「美しい瞬間に出会い、また撮りたいと出かけていっても一度と同じ景色には巡り合えない」。100点以上の「二期一会」が写真集には収められている。

畑さんは京都府出身。美術やスポーツなど幅広い分野を手がけ、映像プロデューサーとしても知られる。70年当時は大学生。万博には何度か足を運んだ程度だったが、80年代に入ってから跡地にできた万博記念公園の広報写真を担当。数年前、公園近くに引越し再び通うようになり、園内の自然文化園に広がる森に魅了された。

自然の美しさと同時に畑さんの心を打ったのは、再開発ではなく「森にする」という選択肢を選んだ跡地利用の理念だ。

「70年万博は『人類の進歩と調和』をうたいながら、会期中は結局、進歩一辺倒だった。跡地が再開発されていたら『調和』はどこにもないまま終わるところだったが、先人たちの決断のおかげで50年後の今、『調和』が見事に実現されている」

25年大阪・関西万博を翌年に控えた今こそ、多くの人にそのメッセージを伝えたいと写真集作りに着手した。

70年万博は、一帯に広がる丘陵地を切り開いて会場とした。閉幕時点で跡地利用は未定。大阪府や地元産業界は官公庁や流通施設を誘致するなど新たな開





発を求めた。大阪市中心部から約15キロ。巨大なベッドタウン「千里ニュータウン」に隣接し、高速道路や鉄道も整備された地域は魅力的な候補地だった。

しかし閉幕の3カ月後、国の諮問機関・万国博覧会跡地利用懇談会は「緑に包まれた文化公園」として一括利用すべきだと結論づけた。公費が多発し、高度成長期の負の側面が注目された頃。技術の進歩や開発一辺倒の風潮に対する疑念が社会で膨らみつつあった。

森づくりを担当したのは、跡地利用に携わった文化人類学者・梅棹忠夫の教え子で、弱冠33歳の造園家だった吉村元男さん(86)。多様な生物が生息する天然の森を人の手で再現し、その公園を市民に開放して、都市に住む人々の憩いの場とすることが使命だった。



大阪府の準絶滅危惧種、モリアオガエル。へビ、昆虫など小さな生き物も多数掲載されている

畑英雄さんによる写真集「奇跡の森 EXPO70」(グリーンセンター)

念頭に置いたのは米ニューヨークのセントラルパーク。約1000畝の土地にそれぞれジャングル、サバンナ、草原をイメージした、密生林、疎生林、散開林を計画し、255種、約60万本を植えた。周囲の騒音や排ガスを遮断した静かな森を表現するため、外周部はパトリオンのがれきの上に盛り土をしてかさ上げし、すり鉢状にした。

梅棹からの指は「30年で森をつくれ」。なぜ森なのか、なぜ急ぐのかを尋ねた吉村さんに梅棹は、建築物を造らせないためだ、と答えたという。自力で循環する「自立した森」には本来100年かかるため「無謀な依頼」だったというが、がれきを埋めた土地の水はけが良かったこともあり、木々は成長。野鳥や昆虫も多種確認されるようになり、00年には森をサルや鳥の目線から観察できる展望台や回廊も造られた。

畑さんは写真集制作をきっかけに吉村さんと出会い、当時の話を詳しく聞く機会を得た。吉村さんが「いくつもの奇跡が重なった」と表現する過程を経て生まれた、世界的にも珍しい規模の人工の森。現在も自立の途上にあり、高木層が過密状態となって低木や草が育ちにくくなど、まだまだ人の手を必要としている。「森をつくるには時間と手間とお金がかかる。これから50年、この森が豊かになるか

痩せ衰えるかは、日本人の自然や文化に対する考え方を映す肖像にもなる」と畑さんは言う。

国の独立行政法人改革の一環で14年に公園事業を継承した大阪府は70年万博のシンボル「太陽の塔」の世界遺産登録を目指すと表明している。太陽の塔には、デザインした岡本太郎が進歩主義へのアンチテーゼを込めたのは有名な話。内部の「生命の樹」は18年に再公開され、今また注目を集める。

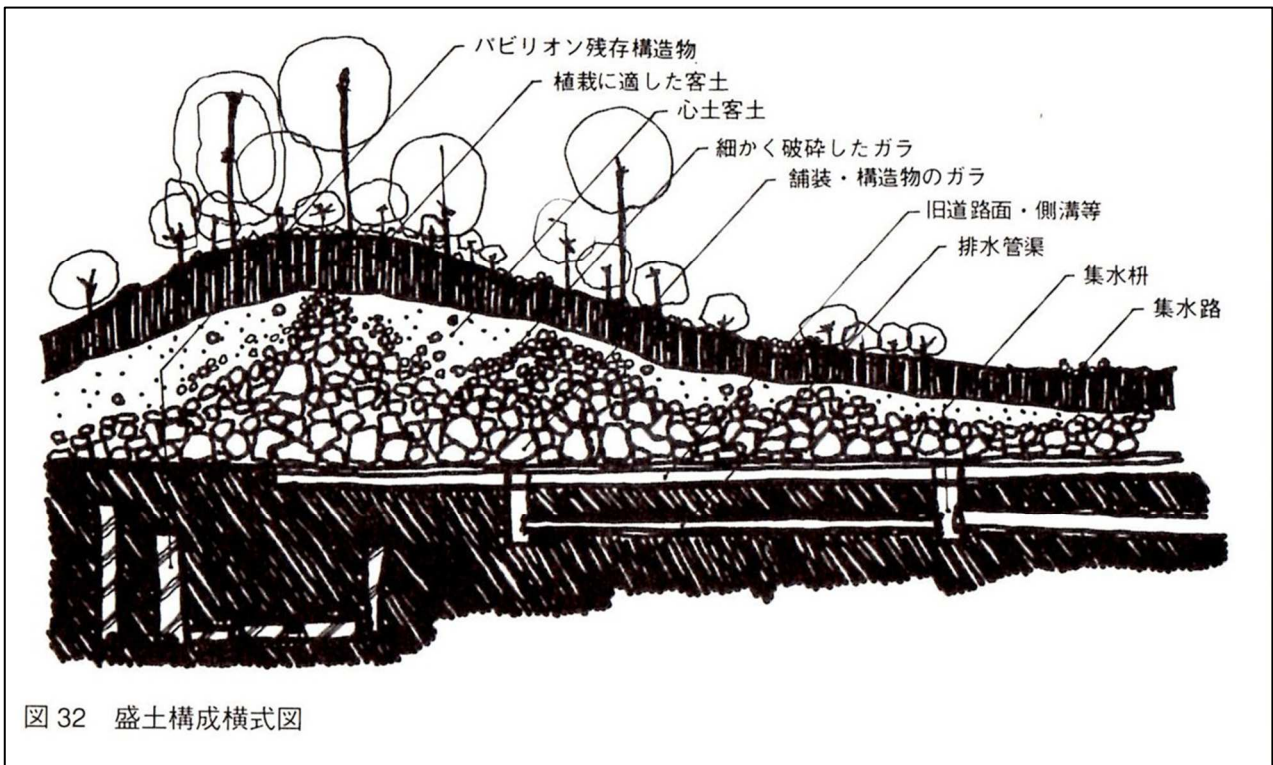
畑さんは「生命の樹」が飛び出して現美になったのが万博の森とも言える。森は「太陽の塔」ほど知られていないが、その一つがそろって初めて価値がある」と訴える。

今、畑さんが吉村さんともに提案するのは、万博の森を25年万博のサテライト会場とすることだ。夢洲会場(大阪市此花区)には、森から1500本を移植して「静けさの森」が設置される計画。そこで森の存在を知った人たちにシャトルバスで本物の森を見に来てもらおう仕組みができれば、「調和」のメッセージをより広く世界に届けられるのではないかと畑さんたちはそう考えている。

現在、大阪市西区の「ザ・サイドギャラリー・アヤ」では、出版記念の写真展を開催している(1月2日まで)。畑さんは25年万博の会期中に写真展を巡回させることも計画中。吉村さんも今月、「奇跡の万博公園 いま、半世紀のレガシーを問う」(マルモ出版)を刊行する。【山田夢留】

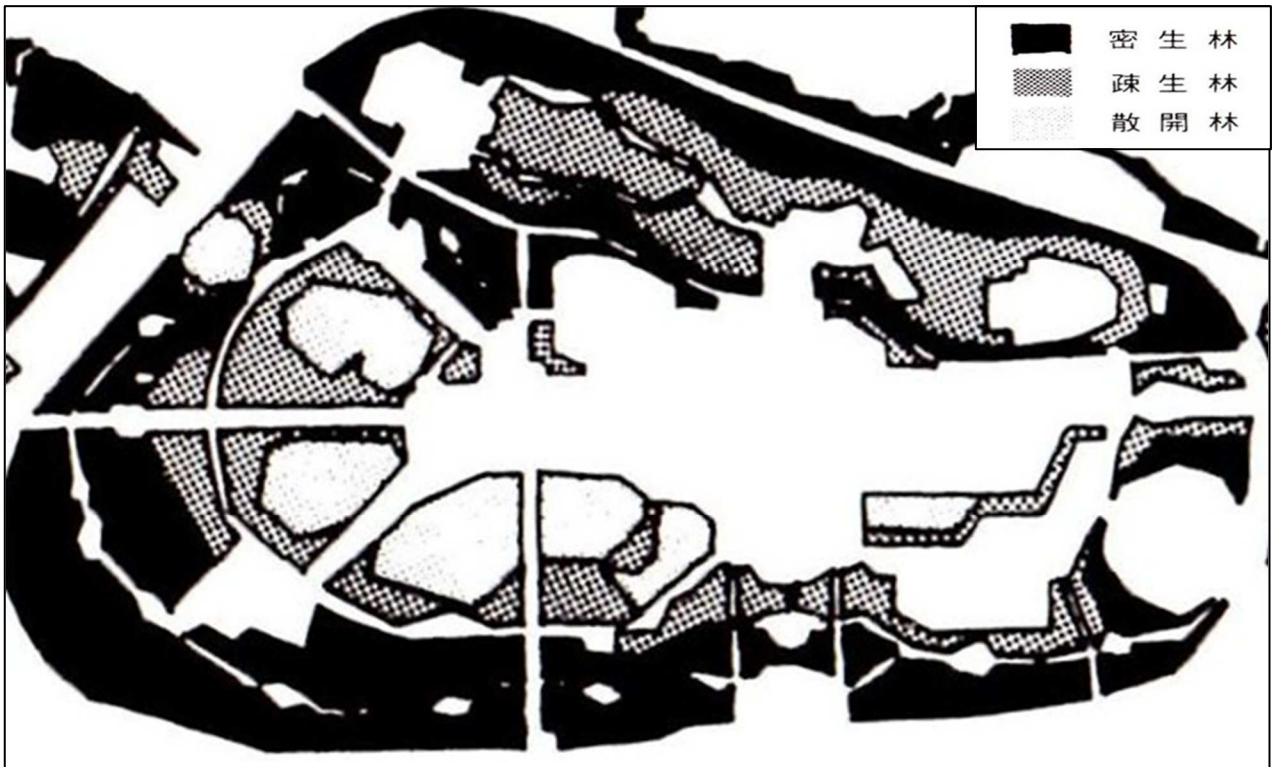
Ⅲ 万博公園の森づくり計画 吉村元男氏（造園家・元鳥取環境大学教授）

（Ⅱ に森づくり担当者として紹介されている吉村元男先生の計画）



↑ 自然文化園(パビリオン跡地) 盛土模式図

↓ 自然文化園 三つの森 配置図



IV 先月 2024 年 10 月万博公園探鳥会結果



オオルリ(橋本昌宗)

万快晴の探鳥日和、この季節の風物詩、モズの高鳴きを聞きながら探鳥会をスタートした。秋の渡りの鳥は I に紹介のエゾビタキ(11羽)が「東の広場の桜並木周辺」を中心に何回も、ノビタキ(4羽)は「もみじ川流域」でよく出て、いずれも過去最高の個体数となった。コサメビタキ・オオムシクイ・センダイムシクイの小鳥、更には上空を渡るノスリも観察できた。日本庭園「花しょうぶ園」外周のクヌギ林のヒタキ科の鳥、肉眼では確認できなかったが、**橋本氏の写真←画面**により、**玉置こるり氏から「オオルリ若鳥」であることの説明**を受けるなど、最後まで鳥を楽しむことができた。



オオルリを見る(平軍二)



コサメビタキ(橋本昌宗)



モズ(橋本昌宗)



ノビタキ(橋本昌宗)

IV 来月の万博公園探鳥会 12月14日(土)

集合 9:30 自然文化園中央口 終了 15:00 頃 日本庭園内の予定

内容 12月、冬の間定住する冬鳥が、次々に観察できる季節、ツグミ・シロハラ・アトリ・シメなどヒタキ科・アトリ科の鳥との出会いを楽しみに開催したいと思ってる。

参加予定の方 今月同様大阪支部 HP ホームズ様式からお申し込みください。

ホームズでの申し込みが難しい方、平宛メール g.0501.hi@gmail.com 連絡でも OK。

V 万博公園探鳥会観察種 チェックリスト

万博 NO	大阪 NO	種名	2024												大阪 NO
			1 13	2 10	3 9	4 13	5 11	6 8	7 13	8 24	9 14	10 12	11 9	12 14	
1	24	オシドリ	2	2	25									24	
2	26	オカヨシガモ												26	
3	27	ヨシガモ												27	
4	28	ヒドリガモ												28	
5	30	マガモ	2		2		1							30	
6	32	カルガモ	32	26	28	9	16	27	11	4	8	4		32	
7	35	オナガガモ												35	
8	38	コガモ												38	
9	42	ホシハジロ			1									42	
10	46	キンクロハジロ	1	2										46	
11	58	ミコアイサ												58	
12	62	カイツブリ	4	7	1	3	5	7	7	3	4	6		62	
13	74	キジバト	5	1	4	8	4	2	2	9	5	3		74	
14	78	アオバト		5	1									78	
15	127	カワウ	3	6		8	7	2	3	5	3	2		127	
16	139	ゴイサギ												139	
17	144	アオサギ	2	1	2	1	1	1	2	2	2	1		144	
18	146	ダイサギ		1	1									146	
19	148	コサギ		5	2	3		1	2	2				148	
20	166	クイナ												166	
21	174	バン												174	
22	175	オオバン												175	
23	187	ツツドリ												187	
24	192	アマツバメ												192	
25	195	ケリ												195	
26	202	イカルチドリ												202	
27	203	コチドリ												203	
28	219	タシギ	2	2	2	2								219	
29	244	イソシギ												244	
30	286	ユリカモメ												286	
31	339	ミサゴ	1	1										339	
32	340	ハチクマ												340	
33	342	トビ		1			2					2		342	
34	354	ツミ												354	
35	355	ハイタカ	3	1	1									355	
36	356	オオタカ	1	4										356	
37	357	サシバ												357	
38	358	ノスリ			1	1						7		358	
39	383	カワセミ	4	2	6	1	3	5	3	2	2	1		383	
40	388	アリスイ												388	
41	390	コゲラ	5	5	2	5	2	2	6	1	3	6		390	
42	401	チョウゲンボウ		1	1	1		3	1	1		1		401	
43	407	ハヤブサ												407	
44	412	サンショウクイ												412	
45	418	サンコウチョウ												418	
46	420	モズ	2	1	1							6		420	
47	435	ハシボソガラス	15	7	5	13	15	18	11	31	39	2		435	
48	436	ハシブトガラス	32	38	48	34	48	32	27	33	41	34		436	
49	442	ヤマガラ	4	8	2	2	2	8	1	9	14	2		442	
50	445	シジュウカラ	14	18	17	23	17	16	12	26	29	6		445	
51	457	ツバメ				6	27	22	11	1	3	3		457	
52	459	コシアカツバメ					3	5	1	4				459	
52	463	ヒヨドリ	67	52	26	13	12	8	18	15	28	59		463	
53	464	ウグイス	2	1	5	11	6	8	6		1			464	
54	465	ヤブサメ												465	
55	466	エナガ	8	9	6	2	6			3	15			466	
56	476	オオムシクイ									2			476	
57	477	メボソムシクイ												477	
58	479	エゾムシクイ												479	
59	480	センダイムシクイ						1		1	1	1		480	
60	485	メジロ	6	4	7	8	11	17	14	34	22	45		485	
61	492	オオヨシキリ												492	
62	501	ヒレンジャク												501	
63	506	ムクドリ	14	2	1	4	14	77	14	44	68	1		506	
64	508	コムクドリ												508	
65	514	トラツグミ		1										514	
66	521	シロハラ	1	3	4	8								521	
67	522	アカハラ				3								522	
68	525	ツグミ	138	3	44	35								525	
69	530	コマドリ												530	
70	536	ルリビタキ			1									536	
71	540	ジョウビタキ	7	3	5	1								540	
72	542	ノビタキ										4		542	
73	549	イソヒヨドリ		1	1						1	1		549	
74	552	エゾビタキ										10		552	
75	554	コサメビタキ				2					11	2		554	
76	558	キビタキ				1	1	2			2			558	
77	561	オオルリ										1		561	
78	568	ニューナイスズメ					11							568	
79	569	スズメ	31	32	4	21	23	19	33	71	77	28		569	
80	573	キセキレイ									1	2		573	
81	574	ハクセキレイ	16	12	15	9	6	13	9	7	20	22		574	
82	575	セグロセキレイ	4	2		1			1	3	2	1		575	
83	580	ビンズイ												580	
84	584	タヒバリ												584	
85	586	アトリ	18	31	32	2								586	
86	587	カワラヒワ	81	97	65	10	15	23	9	32	4	2		587	
87	600	シメ	8			2								600	
88	602	イカル					3	1						602	
89	610	ホオジロ												610	
90	617	カシラダカ												617	
91	624	アオジ	2		2	2								624	
92		ドバト	○	○		○	○	○	○	○	○	○			
93		ソウシチョウ													
94		カッコウSP													
95		ムシクイSP													
96		タカSP													
97	37	トモエガモ	3											37	
98	251	トウネン									3				
99															
種類数(種)			36	39	36	37	26	26	25	26	26	33			
個体数(羽)			538	398	369	268	250	320	205	345	393	287			
天候			晴	晴	曇	晴	晴	晴	曇	晴	晴	晴			
参加者数(人)			23	34	35	31	30	24	12	6	18	27			